

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT25	世界の鉄道研究	世界の鉄道はどのように発達し今日に至ったのか	櫻井 寛	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	鉄道の発明、鉄道発祥の地、各国ゲージ、高速鉄道、登山鉄道		
ディプロマポリシーとの対応	2. 交通産業および関連分野での基礎能力(技術・理論)を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 交通の一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力(技術・理論)を身につける				
事前受講するとよい科目	交通概論 A/B、鉄道基礎、鉄道数学、鉄道工学、鉄道安全論、鉄道システム論				
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法	教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道は1825年にイギリスで実用化され今年には200周年の節目の年。今日、世界にはおよそ140カ国で鉄道が運行されているが、各国の国土、気象、歴史、文化、経済、宗教、国民性などの違いによって世界には多種多様な鉄道が存在する。各国の鉄道事情を研究することは、国際的な教養を高めることにも大いに役立つ。				
到達目標	鉄道の発明、発展に寄与した国と人物を理解する。ゲージ(軌間)の差違による各国の鉄道の歴史を理解する。高速鉄道を運行する現代の鉄道先進国を理解する。				
講義内容	講師がこれまでに世界95カ国の鉄道取材してきた画像を使用し、イギリスにおける鉄道の発明と発達史。日本に鉄道という文明をもたらした欧米諸国。一方、日本の鉄道技術が輸出されたアジア諸国、近年では欧米諸国への車両や技術輸出など、日本と綿密な関係にある国々の、鉄道の歴史、現状、文化、技術、システムなどを学び検証する。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	オリエンテーション	興味のある国、行ってみたい国、研究したい国ベスト3		
	第2講	イギリス	鉄道発祥の国、ロコモーション号からHITACHIトレイン		
	第3講	アメリカ・カナダ	世界最大の鉄道網、世界最大級の貨物列車、大陸横断鉄道		
	第4講	ドイツ・オーストリア	電化、ディーゼル化の先進国、信用乗車方式、環境優先ICE		
	第5講	フランス	最高速度574.8km/h 世界最速の高速列車TGV		
	第6講	イタリア	デザインで世界の鉄道をリード		
	第7講	スイス	鉄道王国、世界一の路線密度と列車密度、廃線ゼロ、立客ゼロ		
	第8講	中国・香港	疑問点の多い鉄道技術とコピーデザイン、香港の都市交通		
	第9講	韓国	フランス製の高速列車KTX、在来線も標準軌		
	第10講	台湾	日本製の高速列車700T型、在来線は狭軌		
	第11講	ロシア・スペイン	広軌を採用した理由、世界最長のシベリア鉄道		
	第12講	オーストラリア	狭軌、標準軌、広軌、各州で異なるゲージ		
	第13講	南アフリカ・ニュージーランド	日本と同じ狭軌(1067mm)を採用した理由		
	第14講	インド・東南アジア	広軌のインドと、1mゲージの東南アジア		
第15講	まとめ	世界の高速鉄道			
指導方法	講師撮影の鉄道画像とテキスト、レジュメを用い講義形式で授業を進める。学生諸君による各自の「世界の鉄道研究」の成果を発表し討論する。				
事前学習	授業前の事前学習として、各回の参考文献該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について文献などを調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	本試験(筆記試験)50%、平常点(各自の研究発表など)50%で成績評価する。				
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法	課題の講評は授業内で行う				
テキスト	毎回レジュメを配布				
参考文献	櫻井寛[2024]『列車で行こう! The Railway World』(世界文化社)				
実務家教員による授業	教員	経歴			
特記事項	日本地図はもちろん、世界地図も読みこなせるように!				